

# 体育パート



「脇しめて～」の口伴奏で技のポイントを確認！  
お手伝い（補助）やスモールステップで技能向上！

第5学年 鉄棒運動（だるま回り）

仲間と共に学び合う学習集団をつくる体育授業の展開

目指す児童像

- 運動に親しむための基本的な動きを身につけた子
- 教え合いや学び合い等の学び方を身につけた子

研究の視点1

系統的な教材を活用する。

①スモールステップやお手伝いによる技能の向上 (因子③)

長なわ○人跳び  
…少しずつ人数を増やして同時に跳び、最終的に4人跳びまで挑戦した。



お手伝いの子を育てる授業づくりで、関わり合いを深める。



②簡単な場やルール、少人数の簡易ゲームによる技能の向上 (因子①・④)



4対2ラインマン付きのミニゲーム (タスクゲーム)  
↓  
I型サッカー (メインゲーム)

研究の視点2

運動観察場面を設定し、課題を共有して技のポイントを確認する。

③口伴奏などの「ハッピーワード」を取り入れ、技のポイントを確認 (因子②・③)



「♪足裏、ぎゅ」の声がかかったら、動きを止めて、ボールをおさえる。…攻撃前にボールを一度とめて、周りを見る動き

「♪ふとんほし、脇しめて、腿持って、肘つけるまげてーのぼしてーまげてーのぼしてー」  
…だるま回りを確実にを行うための動き



④2教材組み合わせ单元や、「クラス点」設定等で学習過程を工夫する。(因子④)



授業の流れ、毎時間のミニゲームによるクラス点などを詳しく掲示

⑤「体育班」や基礎感覚づくりの時間、体育ノート・カードの活用等、学習環境を工夫する。(因子④)



逆さ感覚、跳び越える感覚、リズム感覚などを、パワーアップタイムの中で身につける。

次年度に向けて

- 「仲間とかかわって運動する」を視点に置いた授業づくりに取り組めた。体育班で活動することで共通理解を深め、関わりながら学習を進めることができた。
- お手伝いやスモールステップで「できた」「できそう」などの自己有能感を持たせることができた。
- 新学習指導要領の分析。
- 身に着けさせたい動きを整理した、系統的な指導の充実。

## 2 研究の概要（体育科パート）

### （1）体育科パートテーマとめざす児童像について

|  |
|--|
| <p>〈体育科パートテーマ〉<br/>「仲間と共に学び合う学習集団をつくる体育授業の展開」</p>                      |
| <p>〈めざす児童像〉<br/>○運動に親しむための基本的な動きを身につけた子<br/>○教え合いや学び合い等の学び方を身につけた子</p> |

児童の実態や本校学校課題研修の研究の視点、「主体性」や「かかわり合い」を踏まえて、教師の願いを以下のように考えた。

- ①「やればできる、できるようになる」自己有能感をもたせたい。
  - ②互いに認め合い、協力し合って伸びていこうとする集団をつくりたい。
  - ③運動学習を通して、「人とかかわる」社会性を育てたい。
- これらの教師の願いを踏まえて、〈めざす児童像〉を設定した。

### （2）研究の視点について

基本的な動きを身につけさせるために、運動教材を選び系統性をもった指導が必要だと考えた。また、技能の向上を図るために、学級で課題を共有し、運動観察場面を意図的に取り入れることを考えた。ペアや少人数、学級全体での運動観察場面を適時行うようにした。その際、励ましや元気の言葉かけや動きのわかる言葉かけ（口伴奏）を意識させ、「ハッピーワード」として積み重ねていくことを手立ての一つとした。また、運動の「お手伝い」（運動補助）や長い期間に渡ってペアや少人数班を組む、「体育班」を設けたり、個人や班で獲得した記録や点数を「クラス点」として学級の伸びを共有したりすることも研究の視点の手立てとした。（以下に視点と手立てをまとめる。）

|  |                                     |
|--|-------------------------------------|
| （視点1）系統的な教材を活用する。  | （視点2）運動観察場面を設定し、課題を共有して技のポイントを確認する。 |
| <p>（手立て）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① スモールステップやお手伝いによる技能向上。（因子③下位の子への視点をもった授業づくり）</li> <li>② 簡単な場やルール、少人数の簡易ゲームによる技能向上。（因子①シンプルな授業④友達とのかかわり）</li> <li>③ 口伴奏などの「ハッピーワード」を取り入れ、技のポイントを確認する。（因子④）</li> <li>④ 2教材組み合わせ単元や「クラス点」設定等で学習過程を工夫する。（因子②系統的な指導）</li> <li>⑤ 「体育班」や基礎感覚づくりの時間の設定、体育ノート・カードの活用等、学習環境を工夫する。（因子①）</li> </ol> |                                     |

これまでの授業研究で以下の主な実践をした。

- 1) 高跳び遊び・鉄棒遊び（2年）…2教材組み合わせ単元・体育班・口伴奏（ニンニン）
- 2) サッカー（I型サッカー）（6年）…簡単なゲーム化・クラス点・「ハッピーワード」
- 3) キャッチバレーボール（4年）…簡単なゲーム化・クラス点・作戦・「ハッピーワード」
- 4) だるま回り・長なわ○人跳び（5年）…スモールステップ・お手伝い・体育班・口伴奏
- 5) アタックバレーボール（6年）…基礎感覚づくりの時間の設定・簡単なゲーム化
- 6) 多様な動きをつくる運動遊び（折り返しの運動・長なわ）（1年）…本研究発表会授業

手立て① スモールステップやお手伝いによる技能向上。

手立て④ 2教材組み合わせ単元や「クラス点」設定等で学習課程を工夫する。

高跳び遊び・鉄棒遊び（2年）



8の字とびで競争だ。グループの得点を合計したクラス点も伸びたよ。

「ニンニン！」鉄棒の合図が始まるよ。見る合図にもなったハッピーワード「ニンニン」。お手伝い（運動補助）の方法も運動観察場面の共通課題としてみんなで共有。

手立て② 簡単な場やルール、少人数の簡易ゲームによる技能向上。

手立て③ 口伴奏などの「ハッピーワード」を取り入れ、技のポイントを確認する。

I型サッカー（6年）



T：どうしてゴールできたの？  
局面のよい動きをみんなで学ぶ。



苦手な子も、ボールを止める、インサイドキックの基礎技能を上げながらゴールできた。

手立て② 簡単な場やルール、少人数の簡易ゲームによる技能向上。

手立て③ 口伴奏などの「ハッピーワード」を取り入れ、技のポイントを確認する。

キャッチパレーボール（4年）



「選んだ作戦通りに決まったよ。」  
作戦を共有化して、班で作戦を選ぶようにしたことは児童の実態に合っていた。



広がってボールがくるよ。

教師の言葉かけから、励ましの言葉や動きのわかる言葉が広まっていた。（ハッピーワード）



### 手立て③ 友達との見合い・教え合い・補助

授業の中で友達の様子の「見合い・教え合い」の時間を設けることで、友達の主運動の動きを見て、動きがきちんとできているか確認をしたり、自分の動きとの違いを考えたりすることができるようにした。見る側は、それぞれがポイントをしばって見ることで、「できた」「できていない」部分をしっかりと見ることができ、アドバイスもしやすくなった。

友達の運動の様子を見ることで、動きを客観的に見られるようになり、自分の動きに取り入れ、技能の向上につながった。

技能の高まりを実感できる指導を行えるよう、児童一人ひとりが技に取り組む際、言葉と動作を連動させ、技に取り組ませやすくなる口伴奏等（「布団干し、腿持って、肘付ける。ロック！曲げて～のばして～」）を学習の中で定着させるようにした。

その結果、子どもが、自分自身で技の気をつけるべきポイントをイメージしやすくなり、個々の技のスキルアップにつなげることができた。また、グループ学習の時にも、グループで技の到達点などを口伴奏等によって共有化することができ、正確な伝え合い、教え合いを可能とすることができた。

言葉を発しながら学習に取り組むことで、授業にもメリハリが生まれ、学習に集中して取り組むことができるようになった。

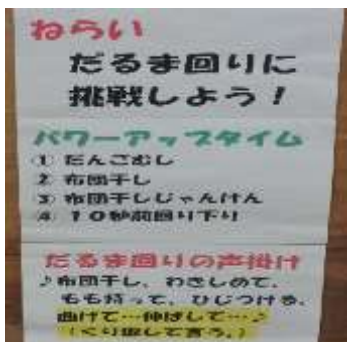


### 手立て④ 学習過程や学習内容を把握できる教材教具や掲示物の工夫

1時間の学習の流れや、習得に取り組んでいる技の具体的なポイントをいつでも振り返ることができるように掲示物を工夫する。毎時間の流れを統一して視覚的に示すことで、児童が見通しをもって学習し、十分な運動量が確保できるようにした。

鉄棒では長い補助マットを使用し、児童が意欲的にだるま回りに取り組むために用具の工夫をする。また、恐怖心を取り除くために下に安全マットを使用したり運動量を確保するために場の準備を簡単にした。

また、ソフトバレーボールでは、ねらった場所にアタックがビンゴの的をコートに作り、パワーアップタイムから楽しんでアタックができるように場の工夫をした。



## 体育科パート 研究の成果と課題

### 1 基本的な動きを身につけた子（系統的な教材の活用）

- 運動が苦手な子や運動能力下位の子に視点を置いた授業づくりができた。
- 簡単な場やルールを設定したシンプルな授業づくりによって技能習得や学び合いに効果があった。
- 2教材組み合わせ単元（高跳び遊び・鉄棒遊び）によって、子どもたちが長い期間運動に親しみ意欲や技能を向上させることができた。
- 体育班（身長順の4人班。男女ペア。）の活用で子ども同士の評価がしやすくなった。
- 作戦が実行しやすい教材で子どもたちの意欲が高まり、学習課題を解決しやすくなった。
- ボール運動での口伴奏等に関わる動きの身につけ方。
- ボール運動での系統的な指導のあり方と動きの身につけさせ方。
- ボール運動等の得点方法。
- ボール運動の人数のあり方。（ゴール型ではアウトナンバーを取り入れたゲーム等。）
- 沼影ステップスの効果的な活用

### 2 学び方を身につけた子（運動観察場面の設定と指導）

- 口伴奏（ニンニン、足裏ギュッ等）を取り入れることで技能習得へ向けた動き方を学んだり、子ども同士の教え合いに活用できたりして効果が見られた。また、順番を守る、見る等の授業マネジメントにも効果が見られた。
- 元気が出る言葉や動きのよくなる言葉等、言葉かけを子どもたちに意識させた授業によって豊かな関わり合いが生まれた。「ハッピーワード」として集めたり、教師から言葉かけをすることによって広めたりして効果が現れた。
- クラス点を設けることによって個や班だけではなく、学級全体が伸びた喜びを味わうことができ、意欲の向上や豊かな「かかわり合い」につなげることができた。
- 単元や学習の見通しをもたせたことによって子どもの動きがよくなった。
- ふり返りの時間のあり方をどう捉えたらよいか。
- ボール運動等でもめた時の対処方法や指導のあり方。

#### 【キーワード】

- ・下位の子苦手な子
- ・運動観察場面
- ・スモールステップ
- ・お手伝い（補助）
- ・応援
- ・口伴奏
- ・体育班
- ・クラス点
- ・シンプルな授業
- ・2教材組合せ
- ・運動を観察する力
- ・運動の系統性を明確にする（授業のやりやすさ）
- ・学習成果（態度、思考判断、技能）の保障
- ・運動の過程を味わう
- ・基礎感覚（逆さ、振動、回転、体幹の締め…）

#### 「4つの因子」の視点から

- ①授業マネジメント：シンプルな授業
- ②基礎アップ：系統的な指導・スモールステップ
- ③授業スキル：下位の子への視点をもった授業づくり
- ④アクティブラーニング：友達とかかわり合いながら運動する場面・運動観察場面・応援、お手伝い（補助）